

IoTとコストマネジメント研究会

武州工業(株)の 会計システムの現状と課題

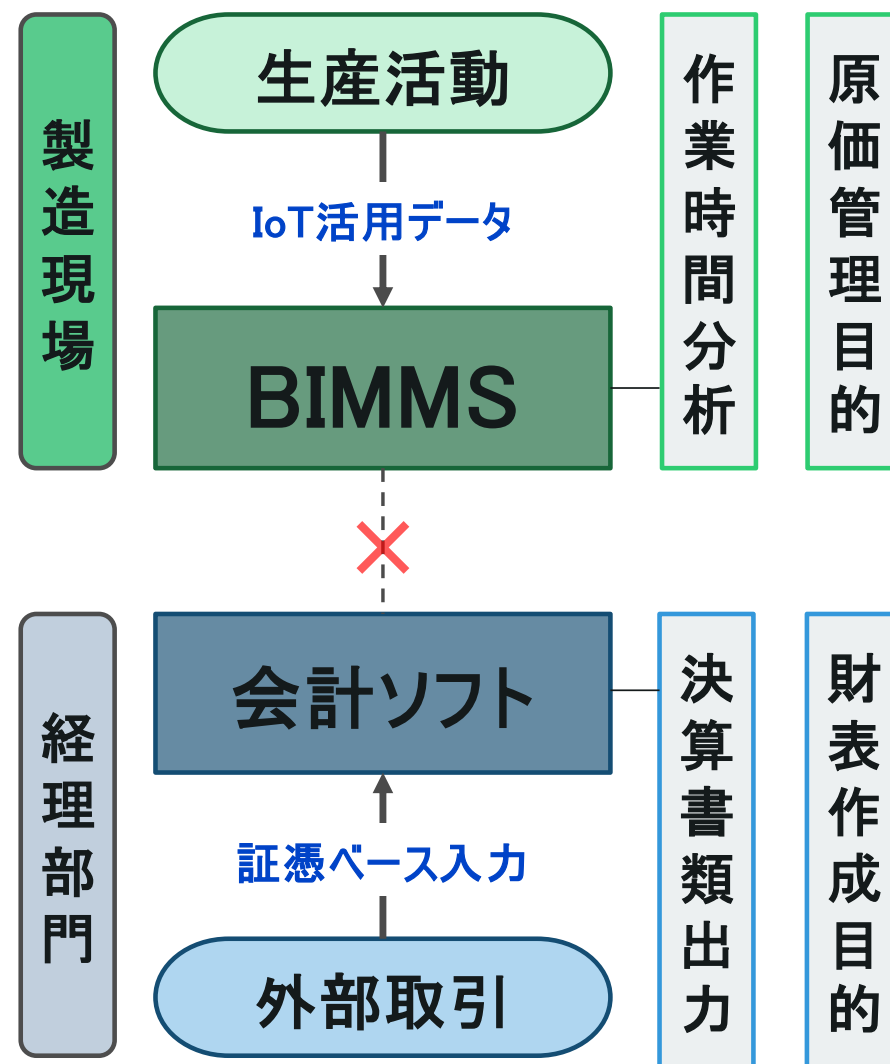
中央大学商学部教授 河合 久
専修大学商学部准教授 櫻井 康弘
(株)レキシコム代表取締役(公認会計士) 中原國尋

これまでの訪問調査実施状況

日時	応対者	内容
2018年8月8日 (2H)	● 代表取締役：林英夫氏 ● 新規事業創出Gチーフエンジニア：町田武範氏 ● 顧問：中小企業診断士	● 武州工業(株)の経営状況・方針、生産形態・特徴、データ管理等に関する聞き取り。 ● 今後の調査方針・到達目標等の確認。
2018年8月27日(3H) 2019年2月14日(2.5H)	● 代表取締役：林英夫氏 ● 新規事業創出Gチーフエンジニア：町田武範氏 ● 総務経理チームリーダー ● 顧問：中小企業診断士 (2/14日)	● 武州工業(株)の原価計算(原価要素の把握)に関する聞き取り。 ● 武州工業(株)の経理フローおよび試算表に関する聞き取り。 ● 経理システムの改善の方向性に関する検討。

「生産データと経理業務との連携」からみた現状

- 製造原価報告書は月次で市販会計ソフトから出力している。ただし、**月次棚卸高は月末に経理処理していない**ので、帳簿上の**棚卸高は前期金額が表示されるのみ**で、期中の変動（貸借金額）は表示されない。
- BIMMSと会計ソフトとの連携はなく、**取引処理システムはスタンドアロンタイプ**である（生産データ処理と会計取引処理とが分断している）。



原価計算・経理業務の課題

経営者（林社長）が目指す「迅速な決算＝日々決算」、「部門別損益計算」、「生産データと経理処理の一貫性」を果たす観点から、大まかな課題が見いだされた。

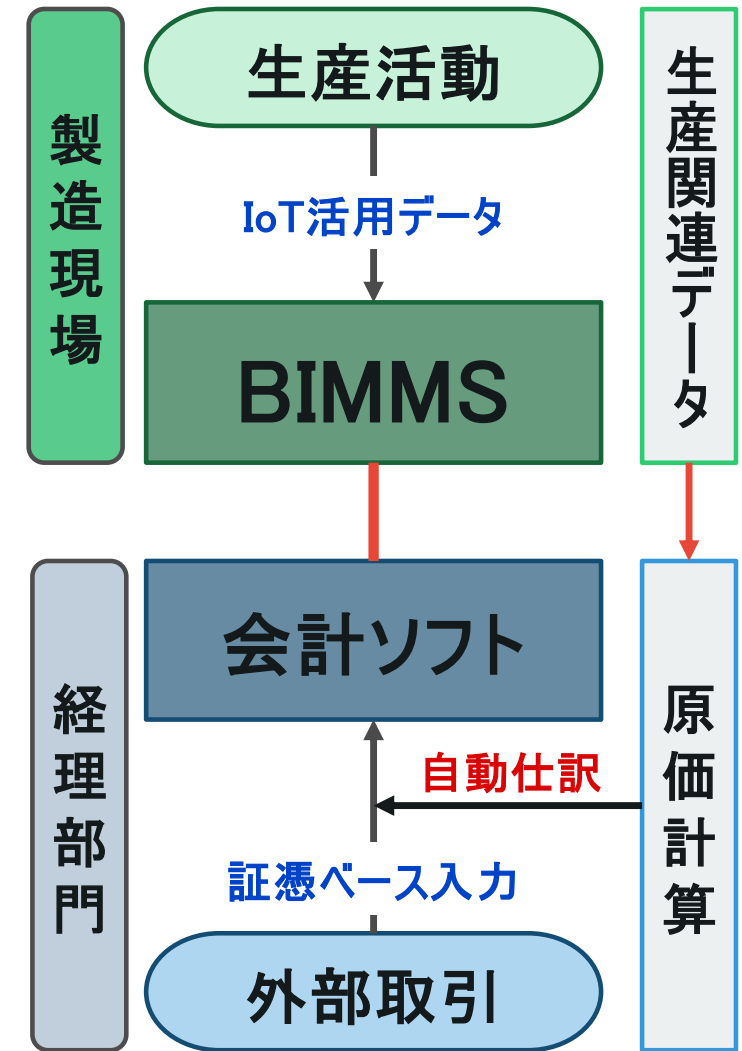
- 原価計算は棚卸計算法にもとづいており、生産過程に沿った消費価値計算が不十分である（商的工業会計に止まっている）。→ 問題点ではない
- 請求書（支払い証憑ベース）の記録が中心となっており、BIMMSデータの有効活用や原価の発生源別データ捕捉が不十分である。

【課題】

原価計算は日次・月次の積み上げによって一気通貫で決算に反映したい。データ管理上把握できる原価要素の金額を会計ソフトに入力し、管理帳票も出力したい。

会計システムの改善ポイント

- 完全工業簿記に近い経理業務フローの構築(基本目的)。
- BIMMSから抽出可能なデータ(材料消費量・在庫量、作業時間、生産量などの数量データ)の活用。
- BIMMS上で把握できる見積上の仕掛品原価と棚卸金額(取引先との取り決めによる単価を基礎)の活用。
- 経理部門での原価計算の実施。
- 多くの原価データを会計ソフトに取り込める形式での自動仕訳(内製化)。



目指したい会計システムの概要

